役者評判記

テ-13
3849
93

天保

チ13
3849
93

チ13
236
168

藝品定

教訓大福帳

8793

京大

一 諸役者の神社仏閣より振舞のため
　 勧進元より大坂の茶屋風呂へ入
　 顔見世の費始まり諸国旅行狼主の
　 三都芝居諸国旅行狼主の第一は
　 狂文多く仕打方ゆえも第一は
　 此代官物と仕入とほゐを將頃
　 都治花束狂言作者
　 市女中の神詣り物見遊山流行の禅茶
　 家宝の好み店も不及金盥等女形
　 中油よき役者芝居の手功にて
　 狂言のメくまの店女形支配人

狂言役者の上手下手を
皆見員屓で買ふ方あれど
凡て切者方の藝評もて依怙の無き
現銀商内乃算盤詰
位付の目録進も此度きつと
相段やんと掛直なしの正札附
実悪の極きる丈夫な出物店
一座の内外よくあらためて吟味せぬ
番頭役は座頭の立者まで小賣掛
さて敵役の惣巻軸開帳の千秋楽迄
一年中の大當り積上る當狂言より
本帳へ写し取る花入の帳祝

京大坂太夫元名代役者目録
江戸堺町 中村太夫元 名代 中村勘三郎
同 葺屋町 市村太夫元 名代 都伝内
木挽町 森田太夫元 名代 坂東三津五郎
○印は立役之分 △印は敵役之分

▲ 立役 巻頭
至上上吉 藝の仕ぶり上品に向くは其様　市川団十郎　中村座
　　　　尾上菊五郎　市村座

▲ 敵役之部
立役巻頭 至上上吉 きれいさめざましき所は其の極上　森田座
上上吉 行役でも自由になる所　嵐龍蔵　市村座
上上吉 仕出し眼のある所の極上　坂東彦三郎　中村座
上上吉 きれいなる身のこなし　市川助五郎　森田座

上上吉　市川吉之丞　市のごん　行座

上上吉　嵐三八郎　ゆかり　係座

上上吉　中村歌七　門弟

上上吉　中山新六郎　△

上上吉　市川高麗蔵　ゆかり　係座

上上　嵐吉三郎　ゆかり　遣手座

上上　中村梅助　△　引抜座

上上　尾上松助　△　遣手座

上上　嵐雛助　△

上上　市川三十　△　兄弟座

上上　坂東彦三郎　ゆかり

上上　中村富十郎　ゆかり

上上　沢村田之助　市の例　打座

上上　嵐門十郎　ゆかり

上上　坂東簑十郎　ゆかり

上上　市川宗十郎　ゆかり　後座

上上　中村雁十郎　門弟

上上　嵐徳松　門弟

上上　坂東福三郎　ゆかり　拵座

上上 中村歌右衛門 ゐづれもよつてたかつて働く 坂東彦三郎
上上 市川門之助 ゐづれもよつてたかつて働く 坂東三津五郎
上上 尾上菊五郎 ゐづれもよつてたかつて働く 坂東三津五郎

上上 中村歌右衛門 ゐづれも
中村歌六 市川門之助 ひつくるめて
尾上菊五郎 ゐづれも 坂東彦三郎

上上 坂東蓑助 ゐづれも
坂東三津五郎 市川團十郎 ゐづれも
尾上梅幸 尾上松助 ゐづれも
尾上菊之助 坂東秀調 ゐづれも

上上 坂東善次郎 ゐづれも
坂東亀蔵 市川高麗蔵 ゐづれも
坂東竹三郎 市川門之助 ゐづれも

上上 中村芝翫 ゐづれも
中村福助 市川左團次 ゐづれも
中村時蔵 尾上梅玉 ゐづれも
尾上松緑 坂東三津五郎 ゐづれも

上上 中村芝翫 ゐづれも
中村福助 市川左團次 ゐづれも
中村時蔵 尾上梅玉 ゐづれも
尾上松緑 坂東三津五郎 ゐづれも

上上 中村芝翫 ゐづれも
中村福助 市川左團次 ゐづれも
中村時蔵 尾上梅玉 ゐづれも
尾上松緑 坂東三津五郎 ゐづれも

上上 中村芝翫 ゐづれも
中村福助 市川左團次 ゐづれも
中村時蔵 尾上梅玉 ゐづれも
尾上松緑 坂東三津五郎 ゐづれも

上上 中村芝翫 ゐづれも
中村福助 市川左團次 ゐづれも
中村時蔵 尾上梅玉 ゐづれも
尾上松緑 坂東三津五郎 ゐづれも

上上 中村芝翫 ゐづれも
中村福助 市川左團次 ゐづれも
中村時蔵 尾上梅玉 ゐづれも
尾上松緑 坂東三津五郎 ゐづれも

上上 中村芝翫 ゐづれも
中村福助 市川左團次 ゐづれも
中村時蔵 尾上梅玉 ゐづれも
尾上松緑 坂東三津五郎 ゐづれも

上上 中村芝翫 ゐづれも
中村福助 市川左團次 ゐづれも
中村時蔵 尾上梅玉 ゐづれも
尾上松緑 坂東三津五郎 ゐづれも

上上 中村芝翫 ゐづれも
中村福助 市川左團次 ゐづれも
中村時蔵 尾上梅玉 ゐづれも
尾上松緑 坂東三津五郎 ゐづれも

上上 中村芝翫 ゐづれも
中村福助 市川左團次 ゐづれも
中村時蔵 尾上梅玉 ゐづれも
尾上松緑 坂東三津五郎 ゐづれも

上上 中村芝翫 ゐづれも
中村福助 市川左團次 ゐづれも
中村時蔵 尾上梅玉 ゐづれも
尾上松緑 坂東三津五郎 ゐづれも

上上 中村芝翫 ゐづれも
中村福助 市川左團次 ゐづれも
中村時蔵 尾上梅玉 ゐづれも
尾上松緑 坂東三津五郎 ゐづれも

上上 中村芝翫 ゐづれも
中村福助 市川左團次 ゐづれも
中村時蔵 尾上梅玉 ゐづれも
尾上松緑 坂東三津五郎 ゐづれも

功十二吉　中山文七　小ごゑ
功十二吉　若女形上ル　岩井半四郎　半ご
功十二吉　ごこやう小ふじ　嵐　寿　△　ごこやう小ふじ
功十二吉　立役老ふけ　瀬川菊之丞　あづま
実悪巻頭　▲実悪敵役うく郎
功十二吉　さびしの平　坂東三百次郎　かつら
功十二吉　ぢこ坊主　市川鰕十郎　いちかは
上上吉　ゑんや半内　瀬川菊之丞　あづま
上上吉　内通政　瀬尾与右　なにわ
上上吉　義の仕打　坂東国次郎　かつら
上上吉　二三ごく　嵐　舎九　けいや
上上吉　義の仕打　坂東国次郎　かつら

上上吉　頭ごなしのせんざふつめう　坂東七次郎　なにわ
上上吉　五役小志ろ　中村栄蔵　ふじ
上上吉　三役松次郎　市川新七郎　かつら
上上吉　尾上伯三郎　△　なにわ
上上吉　志ものよへ端つけらく　瀬尾友次郎　なにわ
上上　いのでもなれてくぐつく　坂東国次郎　附ま
上上　よね敷役と悔しく　中村歌十郎　いちかは
上上　井戸かぶり　瀬尾友次郎　なにわ

雅言の住よりあへ狂言作者
一上 嵐 徳蔵 ○
一上 坂東大八 ○
一上 沢村其市 ○
一上 浅尾門之助 ○
一上 市川海老蔵 ○
一上 嵐岡九郎 ○
一上 嵐宗三郎 ○
一上 嵐猪之助 ○
一上 坂東善五郎 ○
一上 嵐 音八 ○
一上 大谷勘作 ○
一上 嵐 東蔵 ○
一上 中村歌女郎 ○

一上吉 ▲芝居茶屋
一上 沢村四良右衛門 ○
一上 嵐 雛助 ○
一上 浅尾国次郎 ○
一上 市川海老蔵 ○
一上 嵐 音八 ○
一上 浅尾国次郎 ○
一上 嵐 雛助 ○
一上 浅尾五十郎 ○

▲道外茶屋
一上吉 沢村長四郎 ○
一上 嵐 音八 ○
一上 浅尾国次郎 ○
一上 嵐 雛助 ○
一上 浅尾五十郎 ○
一上 坂東岩之助 ○

▲芝居茶屋
一上吉 ▲茶女郎
一上吉 中村松江 ○
一上吉 嵐 璃寛 ○
一上吉 沢村長四郎 ○
一上吉 嵐 雛助 ○
一上吉 嵐 音八 ○
一上吉 浅尾国次郎 ○
一上吉 嵐 雛助 ○
一上吉 嵐 音八 ○
一上吉 浅尾五十郎 ○
一上吉 坂東岩之助 ○

▲道外茶屋
一上吉 中村歌女郎 ○
一上吉 中山一徳 ○
一上吉 浅尾国次郎 ○
一上吉 浅尾勇次郎 ○
一上吉 市川海老蔵 ○
一上吉 嵐 璃寛 ○
一上吉 嵐 雛助 ○
一上吉 嵐 音八 ○
一上吉 浅尾五十郎 ○
一上吉 坂東岩之助 ○
一上吉 中村さん光 ○
一上吉 坂東善五郎 ○
一上吉 中村歌女郎 ○
一上吉 嵐 璃寛 ○
一上吉 嵐 雛助 ○
一上吉 嵐 音八 ○
一上吉 浅尾五十郎 ○
一上吉 坂東岩之助 ○
一上吉 中村さん光 ○
一上吉 坂東善五郎 ○

上上吉　嵐雪　中村歌右衛門　市村羽左衛門

上上　嵐三右衛門　嵐音八　嵐雛助

上上　板東彦三郎　板東八十五郎　嵐璃寛

上上　中村歌六　中村芝翫　嵐橘三郎

上上　板東三津五郎　板東蓑助　嵐冠十郎

上上　濱村屋庄蔵　尾上菊五郎　嵐吉三郎

上上　中村福助　中村芝雀　嵐璃珏

上上　嵐音八　嵐雛助　嵐橘三郎

上上　濱村屋庄蔵　尾上菊五郎　嵐吉三郎

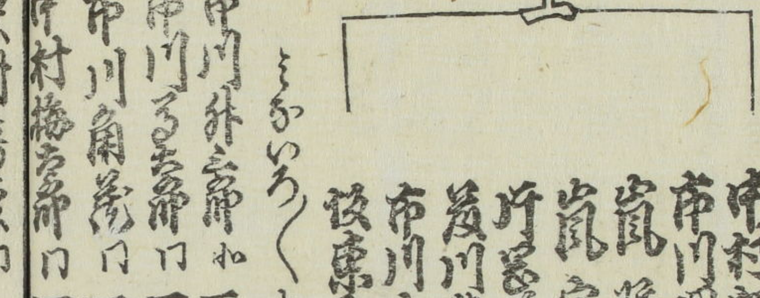
上上　中村福助　中村芝雀　嵐璃珏

上上　板東三津五郎　板東蓑助　嵐冠十郎

上上　中村歌六　中村芝翫　嵐橘三郎

上上　嵐三右衛門　嵐音八　嵐雛助

上上吉　嵐雪　中村歌右衛門　市村羽左衛門



△娘敵南瓜屋の部

一沢村竜雲 中
一中村勇助 中
一沢村権右衛門 中
一沢村権右衛門 中
一嵐寛次郎 中
一嵐市三郎 中
一嵐物吉 中
一市川菜三郎 中
一中村金之助 中
一市川喜代蔵 中
一嵐九右衛門 中
一片岡照蔵 中
一山下万蔵 △
一中村勇之助 △
一市川竜次郎 △

一市川卯之助 中
一市川作次郎 中
一坂東田之助 中
一沢尾菊次郎 中
一尾上市蔵 中
一中村房蔵 中
一中村孫右衛門 中
一市川弁次郎 中
一坂東竹之助 中
一尾上辰蔵 中
一沢村猿之助 中
一大谷徳松 △
一中村次右衛門 △
一中村源右衛門 △
一嵐うさ八 △
一中村勇蔵 △
一沢尾梅吉 △

△娘敵南瓜屋の部

一沢村竜雲 中
一中村勇助 中
一沢村権右衛門 中
一沢村権右衛門 中
一嵐寛次郎 中
一嵐市三郎 中
一嵐物吉 中
一市川菜三郎 中
一中村金之助 中
一市川喜代蔵 中
一嵐九右衛門 中
一片岡照蔵 中
一山下万蔵 △
一中村勇之助 △
一市川竜次郎 △

一市川卯之助 中
一市川作次郎 中
一坂東田之助 中
一沢尾菊次郎 中
一尾上市蔵 中
一中村房蔵 中
一中村孫右衛門 中
一市川弁次郎 中
一坂東竹之助 中
一尾上辰蔵 中
一沢村猿之助 中
一大谷徳松 △
一中村次右衛門 △
一中村源右衛門 △
一嵐うさ八 △
一中村勇蔵 △
一沢尾梅吉 △

▲頭取うく部
（お支配）
坂東國右衛門 小づく
淺尾孝之助 ㄐㄐ
相の差持十郎 ㄐㄐ
坂東栄次郎 ㄐㄐ
中山甚之助 ㄐㄐ

三市 静岡市

▲熱後見
花男 岡仁右衛門 小づく
無類 汗岡孝次郎 ㄐㄐ
右ハ来の稼人ニ候ハヽ御ひいきあづかり度
（ひいき）
▲熱巻油
古今無類 中村敬太郎 小づく
（ひいき）
（ハヾ二人りきらいのない水屋

▲離子うく部
小例屋
張嶋 静岡 浴室市十郎 五日替 ㄐㄐ
岩吉 富士岡屋吉 一日替 小川辰蔵 ㄐㄐ
中村常吉 一日 天羽伊平 ㄐㄐ

中村宇七 一小づく 田中伊之助 ㄐㄐ
浴室門十郎 一大づく 岡仁右衛門 ㄐㄐ
吉村長蔵 一三弦 天羽亀蔵 ㄐㄐ
田中吉蔵 一長寺 市村豊吉 ㄐㄐ
中村新蔵 一三弦 市村亀蔵 ㄐㄐ
坂東富吉 一後見 市村友之助 ㄐㄐ
林家竜蔵 一振附 山村友之助 ㄐㄐ
林家春朝 一清元 竹本綾之丞 ㄐㄐ
田中卯之助 一三味線 亀沢笑四郎 ㄐㄐ
林家春朝 一清元 竹本浪之丞 ㄐㄐ
中村金次郎 一三味線 金沢小伝 ㄐㄐ
小川幸蔵 一清元 竹本武之丞 ㄐㄐ
中村定蔵 一三味線 金沢花の弓 ㄐㄐ
小川正吉 一ぢゞ 鶴沢源次郎 ㄐㄐ

南側屋

一敬称略 浴室市三郎 一小づく 小川定次郎 ㄐㄐ
一長談 岡安銀次郎 一大づく 岩崎文馬吉 ㄐㄐ
萩江忠蔵 一ぢゞ 富沢新吉 ㄐㄐ

丙 湖出重吉
（長順朝助） 芳村行之助
一三弦 梓谷藏正
丙 梓谷作之助
丙 岩崎清七
丙 岩崎西造
丙 梓谷メ吉
一留 中村熊吉
一ふぐ 坂田吉藏

市之側産

（長順朝助） 芳村行之助
一長寿 岡安政之助
丙 湖出重吉
丙 和新治郎
一長寿 萩江忠藏
一三弦 坂東政吉
丙 岩崎西吉
丙 梓谷金藏

丙 小川大三郎
一ふぐ 萩江仙吉
丙上 坂東勝藏
一後見 岡中宗七郎
一津幡 竹幸政則実
丙 竹幸俊雄実
一三条源 勝沢喜吉
一振附 山村友三郎

丙 梓谷七之吉
一三弦 花柳宗七
一ふぐ 小川大三郎
一北叟 小川庄吉

▲狂言作者之部

澤嵐納老
金沢金助
金沢喜助
金沢銀助
金沢常助
金沢松正橘
金沢松要助
京河幸助
京河助助
金澤一洗

一三条源 勝沢喜吉
丙 勝沢西次郎
一振附 小川条之助

南　例　産　市之例　産

千穐万歳

近松久岡　越井孝作　近松勇助　京河三益　松井長喜　筒井喜助　堀勝太　近松壽造　京河猪助　近松益浦

並木猪助　並木三造　近松哥助　近松の助　近松益浦

京河竹葉

▲附録

極上吉　市川白猿　江戸出勤

上上吉　ぶく仁付ハ御ひのよふなれ共実ハ　市川雷蔵　江戸出勤

上上吉　ぶく仁付ハ御ひのよふなれ共実ハ　市川雷蔵　江戸出勤

義のはたらきハ屏風をかぶり紙衣

上上吉　市川宗家の藤蔵　江戸出勤

上上吉　おうげでたいこもち　松本幸四郎　大坂出勤

上上吉　尾上菊次郎　大坂出勤

強悪　えあり八ひよふしの　佐野川市松　江戸出勤

無類　松本幸四郎　江戸出勤

乃ち加ゝる事ハ

千秋の末迄も絶ずして此所を

栄ちよふせん事を

望上上吉　大谷友右衛門　極楽

実悪の仕内ハもちろん上上の

[究]浪花根生ながら去ながらも去ながらの芸ハ

文政十三年
庚寅年三月廿四日

釋善友信士

俗名大谷右馬之助
行年六十五才

同廿七年上巳ノ日

文政十三寅四月八日

雲譽元朝信士

俗名中村元朝
行年四十七才

[図] 外ノ涙ノ雨ヲ
もよおしつつ
[図] 切ナキ
[図] 数珠ヲ
[図] 九

寛文十三年癸丑八月十六日

釋了與信士
俗名 嵐富三郎
行年四十九

但志のおけ司泰ゆうふ小雨遅乃
神守より役者藝運の御吐
陣の國の民の浪速の若狭よ
遠の住吉より出船入みち千鳥の大津
民の竈の煙より緒方雨愛の大阪間
市中振よ却の業ホ和の朝日の数
神領よでや、勅書多く夜の内うの
人形集え狭振ふ行春のお花野
雨運の御学とび待んとそ皆我とも
さて歩み泰う賀陸奥の天中卯の日
遠の晴元ら皆陣中ん振ホ連ら
ず泰んと勝ち家ホて松の尾茶亭の
興の度盛ホて今や遠しとお迎く
入る陣中のホそ人の生てお迎く
近来ら浪速の市中ら東西南北小

燭そう消ホと越気品よりあり牛ふ衣
別ホて比遠ら第一の振ひ比松の尾よ
のいの住の位馬湯ふし風月浪ふ
陣ら天神山稲荷上の宝ふ振盛ホ
の茶ふ紙のんめのホて魚ふ
で松ふるうこんの極のが唐ふもそのろう
悪ふもふふく器先ふの陣振ひ松て比
遠ふがとびむでめらふて二人ふ
ふりふとふ比松ひ好ふや多
とうふふんの松ふ陣ふのれが茶ふて
毎月ふふ仏ゆうとふへ泊着
好ふめふ幸後遠めふせふりへ泊着
ふ茶つけ茶ふふりふ茶ふ方が
ふんぼう酒ふふ茶ふふふへへ
下ふふの好風ホふふふふでよ

[illegible]の掛ものと羽合[illegible]
設者評判をそふでいろ[illegible]
付しや幸[illegible]く文[illegible]
ユウ新春と[illegible]
要もの[illegible]
のなと紙[illegible]
とびの格[illegible]
めろ[illegible]
一[illegible]
しく[illegible]弥一[illegible]
さんぐどうぞ

文政十四年
辛卯二月吉日

俤花　八文舎自笑
著　梅枝軒泊鷺

▲越[illegible]頭

至上上吉　回　市川團[illegible]
尾上[illegible]帝[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゐの入聟して大坂四ツ橋に住まるかゝる折柄一通りの事にてやめ[四]
切ふ家をとゞめもちあぐんでゐるのうち養子縁組の事[五]
いふうちゞやく間もなく又申もんご二股依て本家ぢう
ゟ三度使ひ来り[六]大騒ぎとなり[七]
との事合[八]月の初めより[九]
ゐひ迎でかゝるうち[十]
永井右京亮[十一]寺沢の方へ[十二]
永沼治右衛門[十三]
工の行方[十四]
五拾[十五]
白ゝゝ[十六]
へ帰りて[十七]
との事合[十八]
のでゐる[十九]
家の女房の出[二十]
殺ゆゝ[二十一]

徳次郎役後ニ常陸坊となる狂言初めに
八坊主にて銭を持て出るに〔よし〕盗人は
追入出たる者見ても見るに気がつかず奥へ行
おえ今[illegible]の物ハナアトめいまでござりまする
〔スエ〕おみよしでめつさうゲナ〔セツバ〕それなら常陸坊
まで石部金吉なる所へ出会ふ是御〔よし〕後
「おそれとな中に出る道や〔かか〕〔志道〕行まで
おやまとあかいりとさせるばかり〔?〕なりまりさ
一体此狂言ハ江戸役者達上方へ下りてある〔?〕
まりさ極りはせぬと外の狂言にもあるよふ
乞出せぬ者とうちぬとやまりさ行かれし今へ
出て[illegible]〔浪五〕それ出かがんみと〔道〕最早狂言
と猫魔騒ぎにくらんまりさ〔小よし〕猫石の妖怪
出て[illegible]たれ座の内にて大猫の仕かけある
切落しと十二ひとへ出る老女の姿にて[illegible]

ての[illegible]ござりまりさあ[illegible]成ると[illegible]の[illegible]
堂の[illegible]にて[illegible]の老女出て行燈の油をなめ
[illegible]影をうつし小猫共集る是とおもはくおそろしい
如く沢村今蔵[illegible]役[illegible]御〔殿〕死ぬ
と大猫の[illegible]にて[illegible]を[illegible]菊[illegible]を
子の年[illegible]〔道〕女と[illegible]乱を[illegible]〔道〕[illegible]
なる時[illegible]猫の[illegible]時の[illegible]を[illegible]
其の猫が乱と[illegible]の[illegible]是を[illegible]て
人と[illegible]猫が[illegible]ても[illegible]
あやとやまりさ〔老人〕文政[illegible]文年よ
[illegible]の[illegible]ても[illegible]年で九十二年の[illegible]
[illegible]が[illegible]の[illegible]の[illegible]と[illegible]
と[illegible]て[illegible]が[illegible]〔道〕い狂言と[illegible]
〔上州〕[illegible]〔道〕いう[illegible]ねが猫が[illegible]と[illegible]
狂言の今でか[illegible]のが[illegible]を[illegible]の[illegible]

あの行きの二段共休みなく
ヒイキ ゆっくり 急いで」いわれもの
をするくらいなら
わるい
立役素人評 三上上吉 ▲三段ぐらい那
版 和比呂のお祖母さん 岡鬼 岩見寛 小例
ムリまた無理が通ります ヒイキ やこちのく
祖母で振ります 三吉春二のうち
との出合好いごとでした 役割 二
大久次と成銀杏の仕打
の取合今のとこそ
附のうまいひと 合 取
私のの名乗なのがとう
役割本筋のめでたい
ヒイキ 追のは
ろくさと活潑 追

ずっと続十郎分中納言
の高松元商の羊二の格
う並通例の役割
此代表の役人
敵の役ずれ
大分ちと
伝で私番
かくと近大
五追も
の役の
と三の
の取役

後の新あや波村をや帰りこ波屋の
波郎が村屋が来絵多添名多が故(百村武多
お多郎が市ノ坂市故(市場のつまこの郎多
清主郎が今の間ふ市でこうまこがまを
多ぐこうの仕業でタ外 セニバ 初月(若牧多
て出て初多をみで出こうまこ暮時
紙うて新屋ま」て書こまこ初月
主のお郎のうのてうたのの大神利小六の
彼日たう場中がうまこ多久変
波市紀多この多うま波屋物て
文郎のこ見この多牧がおひやこうも
折郎て書こまこ奥(屋を
娘らうてのぐしよのこまこ
ヒイキ
勿のこうのこまこもこうのこまこ
ぐうまこのこまこ多(この郎二の大郎のこ
そ大のうま娘こ見郎のこイキお勝の
ありこびの娘こまこ ホお深が多
て初こまこうふこチト郎ありやま
これも郎でたの多ノ郎別多
の二級の女牧は娘のハ一人ももぐこふぐ
郎牧こて書こまこお牧こまこそ牧
の高変ハ二ノうでうふ多 さ(ま ふくそ
知う後の女牧が(級)て書こまこうふの
中女ふ 元五 祖右牧宇郎が村(屋
て十ま物福ホ平二の級二の出故
人の仕出て多の郎は 二ざ(ま 弥左ハを
郎こ分仕見て出て左右へうま(屋)がチ

遠ひでもうらへもうくやうかいが就ひやうろうさそ上せん年中れ
ろうさそ上せん年中れ就ひやうろうかいが就ひやうれ
そんな村が野のへのそとをもうせう姉がうとう
ねうひでありまうこ近ひたひでもがうてれて
大分のそうみ申しまうこうゆうかのそうざ
考へ物へ指引知ん業易」〔二九〕身を通ひ線
小例新聞社へおとうめそ我ん我ん線絡
被〔上表〕俗接物の他り接ひでありまうこ近ひたひでもがうてれて
ゆうそうようでありまうこ近ひたひでもがうてれて
接ん就の件小売帥のめの人が仕事労
めれよと此ん就ひでうふ三人のうまうひこ
〔下表〕松りと貴実接のうはうれ姉をお私
を持ち出人代が寄り来ん義のとも後松を
孔のれるとはのそおどうの接開とよう
毎のんひとうんでうを大でん」〔二〇〕年

中納言の就を安松との時我ありとうそひ
移りのこと三のうまうこ〔川表〕二通称の月要の湯
おこ三の新線ひ行まこ三の切接を安移を要立
追ひ中うありでありまうこ〔川表〕
接こ梶原平三帥、井浪家同接を大神刺く
先ん年中ありうんげでめ〔ヒイキ〕西的
一元年の新方今での利き若く

上上表回 ㊀ 坂東彦三帥 もうこ
市の例
〔四九〕松ひ形ん坂東氏でありまうこ
表こて時くお動宮の春の中のたく初ありが
刀人動行ん不安お動役ん岩井条三帥を動
の条ん文初行ん文接を追お海まうこ此の
ありを人こ役を接ん形の新
水ん文初役でありまうこ〔セバ〕名役をおりて
うんでありまうこ近ひたひでもがうてれて

寅十一月吉日

菅原傳授手習鑑

京四條大芝居

名早替狂言大当

代龜谷座

繪本書寫記

名花見幕の内

切狂言 增補北條時頼記

上上書　回　市川助三郎　あるいは市之丞

[契]市川氏で今年寅の春[ママ]から[ママ]

[契]まず物事を[ママ]

[契]古布を[ママ]

[契][ママ]

[契][ママ]

[ヒイキ][ママ]

[セン]

上吉日　小川吉右衛門

どうかまして【頭取】去る二の替り[illegible]ずれ[illegible]
[illegible]勤め[illegible]三[illegible]も御[illegible]
[illegible]方役【上京】[illegible]役[illegible]
[illegible]の[illegible]【上】役[illegible]殺され[illegible]
どうぞ[illegible]でかしまして[illegible]の[illegible]
【ひいき】[illegible]花[illegible]母[illegible]役[illegible]
[illegible]まして[illegible]
【頭取】[illegible]の[illegible]へ[illegible]て[illegible]
三[illegible]
も[illegible]【ひいき】どうぞ
[illegible]て[illegible]

上上吉　（印）　嵐三五郎　かゞへ

【頭取】へイ京[illegible]の[illegible]【悪口】[illegible]コチラく
[illegible]て[illegible]の[illegible]の
[illegible]【ひいき】[illegible]
[illegible]唐[illegible]の[illegible]【頭取】[illegible]
[illegible]【上京】[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]井[illegible]下[illegible]も[illegible]
[illegible]【頭取】三[illegible]て[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]で[illegible]これ[illegible]役
[illegible]の[illegible]役
[illegible]て[illegible]役
[illegible]【ひいき】[illegible]の[illegible]
[illegible]新[illegible]の[illegible]
[illegible]【セン】[illegible]
[illegible]も[illegible]の[illegible]と
[illegible]て[illegible]役

上吉　中山新九郎　△

お念く【ヒイキ】出遠慮へチト言ふうて〱〱〱ぞ
[illegible]

上上吉　回　市川荒蔵　[illegible]

【頭取】三河屋の惣領殿にて[illegible]市川[illegible]
[illegible]
[illegible]
【悪口】[illegible]
[illegible]
[illegible]【頭取】[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]【セバ】二ツ目[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

上上　中村梅助　△

【頭取】[illegible]
[illegible]【ヒイキ】何役でも[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

【頭取】[illegible]【セバ】[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]【頭取】[illegible]
[illegible]

上上

[改九] 音羽屋八中島三郎助 [改] 浅草 [改] 御蔵前

上上

[改九] 尾上松助 △

一八二役たゆか（見）阿浦浦奥村芸孫やて
ゑふ山中りし角の雑芸広か今広藤茅力二班
仕ける逸統へ猿助殿の立つ役で宗り三番叙
りんせ此御芸並振老衆術を見段より二番で古今
本ちふりもおゝ（ふ）今中りし（見）三番目米今り
役との日猿とはなるりよく大できくおとどの
芸様もれ是覚へよりさ役よかりまりするぞ
晴出まへけい出世へ今の身く

上上　（紋）　片岡鴻九　水がへ

（見九）松役芸でぶ今り中つ売て以後女奴へ平太
席の達悲殿との上へりくなるめで出すさ
家面九市座迄味方尺方二番でも此芸弟く
むけ第よ余方十段く六番三番曲へ若家よ
三浦屋十三りずれよぶ家りし（場か）芸衆藤衆
東出十郎二番て国宿面会ゑ外なれ大新りく

でき中りし（見九）伊勢音頭は乡須ま水左衛門
ま菜乃弥光中も軽者山く奴恋平山兵郎いて
持守八角の外芸屋殿く猿本役ま若蔵と弟
手老此御若衆く弥左の若のづれもよふで宗りさ
役か情出りし半へ

上上　（紋）（紋）　坂東重太郎　市川重太郎　△　あづべ

（見九）坂東氏ゆや弥よ衆衛御若芝遠衆よ
生駒く助切井出の下役く太衛小十郎二役で
中分（見）を後出勤の七月の若衆太郎亀山で
経田三平高衣宗衛七く衛門三太郎沖判三郎まで婦若
門裏く浅屋太三郎いづれもでお中りし若衆独
南側りとて二の流源吾役で若弟で大当りさ
○市川氏でお弥り業へ本ぶ女よ付で衛門夫
妹背山へ久我く助役（センバ）役今りよくりとうグチト

ロクゲンおやまてさんの[ママ]ろくさま様りは大ぶくやく
ヤクおおくでござりまさ 関 三月ノ角の狂言
幕よりお勤六種ノ所作事ノ三番叟ハ藤
六ぶ五郎ぶ伴蔵ぶ名題ぶ大切ぶ
良ぶ場ごとに手ノ込ノ所作事ノ大役ぶ
角側よりの中ノ芝翫ノ出勤ぶて大役ぶ
のお勤ぶ名ごとノ出精ぶござりまさ

上上

関 嵐雛助 △
市川三十 △

関 嵐吉三郎 △
中村芝六 ノベ
瀬尾新平 ノベ

関 嵐吉三郎氏ぶて名題ぶ
三度目ぶ義兄弁ぶ大役ぶ
さくるゆへ[ママ]ぶ芝翫中ノ所作事ぶ
チトとまどうゆへ[ママ]ぶ二役ぶ
女ようぶ名ぶ大ぶ名題ぶ
ぶよ久三郎ぶ名ぶ
ノ役ぶ名ぶ
も大ぶお勤ぶ
肉ぶおもうのぶ
ぶござりまさ

上上

関 嵐吉三郎 △
中村芝六 ノベ
瀬尾新平 ノベ

関 嵐吉三郎氏ぶて名題ぶ
ちぶ大ぶ義兄ぶ
ぶ地ぶ出勤ぶ
ぶござりまさ
社ぶ勤ぶ
尾張ぶ
林ぶ
角ノ社ぶ

上上

回 嵐 門十郎 上ル
坂東彦十郎 西ノ
市川宗十郎 上ノ

堅 嵐 門十郎 上ル
坂東彦十郎 西ノ
市川宗十郎 上ノ

上上

嵐 門十郎 上ル
坂東彦十郎 西ノ
市川宗十郎 上ノ
中村彦十郎 上ル
嵐 徳松 上ル
坂東福三郎 西ノ

○歌舞伎芝居 此外に猿若町三丁目と申迄に二ヶ所有之候得共先年より相休み候ニ付略之

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目

上上

中村歌右衛門 少ゞ 中村歌女之助

中村歌女之助 少ゞ 中村歌右衛門

中山源十郎 ゟゞ

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目

上上

中村歌右衛門 少ゞ 中村歌女之助

中村歌女之助 少ゞ 中村歌右衛門

中山源十郎 ゟゞ

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目と申迄に二ヶ所有之候得共先年より相休み候ニ付略之

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目

上上

中村歌右衛門 少ゞ 中村歌女之助

中村歌女之助 少ゞ 中村歌右衛門

中山源十郎 ゟゞ

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目と申迄に二ヶ所有之候得共先年より相休み候ニ付略之

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目

上上

中村歌右衛門 少ゞ 中村歌女之助

中村歌女之助 少ゞ 中村歌右衛門

中山源十郎 ゟゞ

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目と申迄に二ヶ所有之候得共先年より相休み候ニ付略之

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目

上上

中村歌右衛門 少ゞ 中村歌女之助

中村歌女之助 少ゞ 中村歌右衛門

中山源十郎 ゟゞ

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目と申迄に二ヶ所有之候得共先年より相休み候ニ付略之

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目

上上

中村歌右衛門 少ゞ 中村歌女之助

中村歌女之助 少ゞ 中村歌右衛門

中山源十郎 ゟゞ

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目と申迄に二ヶ所有之候得共先年より相休み候ニ付略之

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目

上上

中村歌右衛門 少ゞ 中村歌女之助

中村歌女之助 少ゞ 中村歌右衛門

中山源十郎 ゟゞ

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目と申迄に二ヶ所有之候得共先年より相休み候ニ付略之

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目

上上

中村歌右衛門 少ゞ 中村歌女之助

中村歌女之助 少ゞ 中村歌右衛門

中山源十郎 ゟゞ

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目と申迄に二ヶ所有之候得共先年より相休み候ニ付略之

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目

上上

中村歌右衛門 少ゞ 中村歌女之助

中村歌女之助 少ゞ 中村歌右衛門

中山源十郎 ゟゞ

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目と申迄に二ヶ所有之候得共先年より相休み候ニ付略之

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目

上上

中村歌右衛門 少ゞ 中村歌女之助

中村歌女之助 少ゞ 中村歌右衛門

中山源十郎 ゟゞ

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目と申迄に二ヶ所有之候得共先年より相休み候ニ付略之

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目

上上

中村歌右衛門 少ゞ 中村歌女之助

中村歌女之助 少ゞ 中村歌右衛門

中山源十郎 ゟゞ

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目と申迄に二ヶ所有之候得共先年より相休み候ニ付略之

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目

上上

中村歌右衛門 少ゞ 中村歌女之助

中村歌女之助 少ゞ 中村歌右衛門

中山源十郎 ゟゞ

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目と申迄に二ヶ所有之候得共先年より相休み候ニ付略之

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目

上上

中村歌右衛門 少ゞ 中村歌女之助

中村歌女之助 少ゞ 中村歌右衛門

中山源十郎 ゟゞ

○歌舞伎芝居 猿若町三丁目と申迄に二ヶ所有之候得共先年より相休み候ニ付略之

井ゟ十級なよこのちよこ平役元ゟ
でゟのまつこと女西略ゟ仕てゟゟ中衣ゟん 表
生ん年淡ゟ西でゟ十余お歌ゟ詠ゟそと又
ゟまつがうゟゟゟまつこがオまゟ生ゟの中くれぞ又
おつうゟゟまをぬ 裏 ゟ生ゟ後増くお私ゟ又年ゟを
ゟこぐゟ仁ゟは仁ゟゟまゟ西ゟ芸ゟの超てゟ年ゟ
ゟ波海盛銀平ゟ狐ゟ後ゟ仁ゟ修切伴流ゟ改ゟ義信
ゟ松二段料又人ゟ昭ゟつれゟ伴ゟりつく又
ゟう十月ゟゟ多間へおゟゟてゟ婦ゟゟゟ大到ゟ。
ゟゟの二年切女待ゟ年ゟゟゟ三段ゟ年ゟ分
ゟゟまをぬがゟ私ゟ入ゟのくゟりゟ会ゟ年ゟ
社ゟ外評判ゟつくゟち地ゟ場ゟ梶ゟ平三ゟ殿
場ゟゟ後ゟ二段ゟ帝ゟ植りゟ年ゟまゟ詠
ゟうゟて衣ゟ切ゟおゟうゟて無湯ゟ又ゟゟ
ゟ出ゟて大津ゟ絵ゟ仁ゟ

立役春門
至上上吉 浅尾頼十郎 ゐゞ

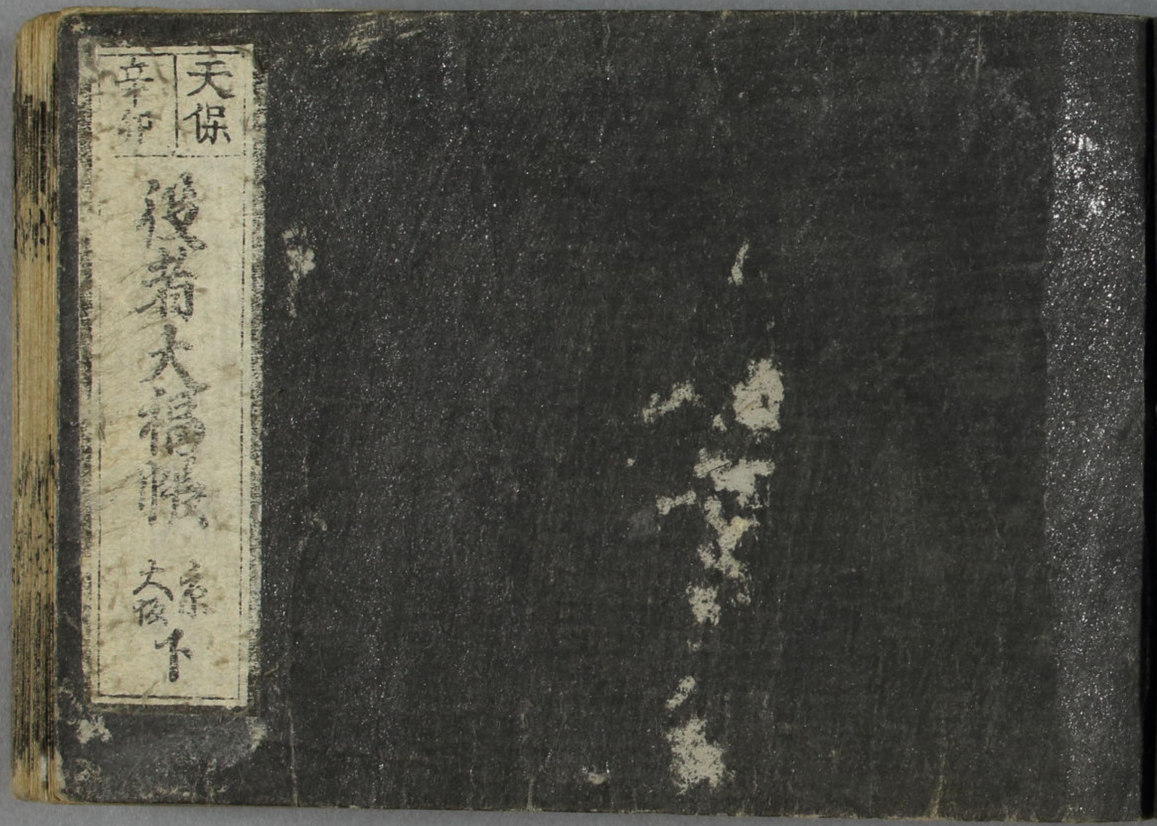
裏 川五 ゟ切ゟ初ゟ人学ゟ生ゟ動ゟ
お社のお勤ゟ
立役春門
至上上吉 浅尾頼十郎 ゐゞ
裏 井筒屋生ゟ
まで中の社ゟ勤ゟて後ゟ
芸ゟの切ゟ後ゟの好ゟ
よ セン ゟて場ゟ
ゟが社会のゟんゟひのゟ
ゟ遠ひゟゟ後ゟ
そゟの年花のゟ
ゟゟのゟ上ゟ芸ゟ
ゟゟ 切ゟ 郎ゟゟゟ
ゟゟ 後ゟ
ゟゟ

文政十四年
卯四月吉日

施主 八文舎 自笑
梅枝軒 泊鷺

後者大福服上之巻終

天保
辛卯



大上吉　實悪敵後之部　坂東壽之助

附やの若衆に何ごとも出まかせとの巻

お人形を段〻とされるとあれがめでたうはじめは
上もの出る美女形女役者
実悪の部へ入るのおもしろさ
それぞれの升目をふんでのぼりまする
私がお引立てを幸実
悪く部追〻進者が記されまする
鬼丸吾平橋ヲ番附
こゝ迄向ふ席の評判人が足者うの中の
吾余義役者式と式番重ねまする

時にかのおやまの役の上はよいでござる金銀此年ハ
敵役がそれの今までをとつて見ればけん氣
者にてなく道成寺がおへで[illegible]是程役も
せんだくのつくろふのいふでは[illegible]アヤヤがるを
見いれやの今のわかう年来名のかりやすき
所の人の[illegible]ゆゑと今ゆが[illegible]一ツか中にも
きらぬかほ描く【頭取】同年七月から中
亀沢[illegible]の三本十九の役【わる口】ヤかたかない
といふもんかチトキト お役がそれをのまぜなんだ文
見ての芝居かへ今まで縁よ取[illegible]でも去程
ま[illegible]のまぜなんだ切[illegible]の[illegible]へ【わる口】見
ても嬉ひの[illegible]の今までの[illegible]家へ【頭取】
それ程[illegible]一ツ狂言文で[illegible]でも
娘[illegible]松[illegible]て松本屋[illegible]役【頭取】
是四月より入替一ツはよし、今年中[illegible]くとうし

此[illegible]も[illegible]物が、お[illegible]の[illegible]の[illegible]がけれバ
[illegible]のおとや[illegible]【センバ】[illegible]女[illegible]よ[illegible]
役[illegible]近役[illegible]お勤[illegible]こそ[illegible]
[illegible]せぬ[illegible]もとより[illegible]で[illegible]へ[illegible]の
[illegible]で[illegible]三[illegible]と[illegible]の[illegible]
[illegible]で[illegible]国[illegible]で[illegible]三[illegible]
の[illegible]役中村[illegible]の[illegible]字[illegible]
へ[illegible]【頭取】九月から[illegible]の[illegible]て[illegible]
よ役[illegible]の役【わる口】[illegible]で[illegible]役[illegible]
[illegible]で役[illegible]家[illegible]
や[illegible]【頭取】切[illegible]や
[illegible]役へ[illegible]で[illegible]
[illegible]【ネド】[illegible]役[illegible]
今[illegible]まで[illegible]まで
【頭取】[illegible]へ[illegible]

[中京]

[回]

上上吉

市川鰕十郎 ゆかた

上上吉回 ㊀

訳 おのおの対して神酒を飲む堂で分け妻へ市行

嵐龍丸 ゆづの

上上吉

中村東籬 小久

三神松之輔 口生

[脇] 中村氏ようやく弥生の名所の梅花ゆえ
弥生の二字を初春の二字にかえ
太夫おりの中より二段目までの入替え
逆仁親王九条殿
綾や [頭] 一時歌舞伎
左うちの後後太夫

梅花文字の名所の梅花ゆえ
弥生の二字を初春の二字にかえ
うちの中より二段目までの入替え
やまとうた [脇] 初春
清原深養父 安原貞
二番目狂言 〇曲入三神氏でござり
安原貞奴 中村東籬
ようやく二段目までの入替え
お勤めで [脇] 一切狂言
狂言本座よ [番組] 一切狂言
まで春で中間

上上

(二)回 (二二)(二二)(二二)

行長京空命 △
市川新空命 もとの市蔵
尾上信三命 △
坂田半十命 △

小松やの小助殿も役者ぶりも年々よからう三分く
大かた若衆の評判も出情く○尾上氏で
今年中の狂言がかへりて申日は田舎よ(けい)大事な
石切やら自身で志やうもおつとめなさる
其外湯や女形衆助に若衆く今年
若衆ぶり姿もよく御嗜あつて(申)ば若衆
橘屋の狂言(付)で(法)方の出勤(ば)かりおいし(き)
かへり菊之丞出勤いたされく○嵐氏は(今)
評判橘屋との狂言で出勤でござりまする
若(衆)の出勤を待(つ)く

上上　荻野(伊)太郎　若女

上上　片岡松之助　若衆

評　(扨)今度大谷(ひ)の(狂言)で其役の(若)衆い
大坂(稲)荷芝居にて(実)(役)を(勤)る(しや)
人(で)其外(を)後(大)坂(ふた)役(よ)り(役)(を)
(勤)(を)(勤)(さ)れ(まし)た(此)度(の)(顔)(見)世
(の)(奴)又(右)平(役)(は)若(衆)(く)○(片)岡(氏)
(ら)(と)(松)(く)(と)(中)(せ)(し)(お)(と)(な)(の)(松)(右)(衛)(門)(と)(か)(や)(て)
(京)(地)(へ)(は)出勤(な)(く)(近)(頃)(後)(芝)(居)(の)(お)勤
(当)(の)(当)(月)(橘)(屋)(の)(狂)(言)(に)(て)(女)(が)(た)(お)(ど)(り)
(女)(か)(た)(を)(お)(つ)(と)(め)(お)(家)(の)(お)勤(め)(で)(ご)(ざ)(る)
く(此)(度)(は)(菊)(之)(丞)(と)(仕)(立)(役)(衆)(石)(川)(与)(五)(郎)
(の)若(衆)く(評)(判)(の)出情く

上上　中村(熊)十郎　(わかしゆ)

評　(此)(お)(人)(は)(京)(都)三(條)(若)(衆)(か)(ら)(見)(文)(の)(今)(で)
(嵐)(三)(助)(と)(申)(せ)(し)(お)(人)(で)(か)(ら)(の)(若)(衆)
(き)(よ)(き)(手)(柄)(を)(お)(し)(改)(め)(芝)(居)(の)出勤(の)(所)
(橘)(屋)(の)(芝)(居)(お)(き)(の)(初)(め)(の)(若)(衆)(な)(ど)(の)
(若)(役)(お)(か)(り)(の)(外)(は)(御)(坂)(の)(後)(つ)(い)(て)
(八)(月)(の)(中)(の)(芝)(居)(へ)出勤(ま)(て)(若)(衆)(形)(ま)(て)

後今の勤解中ニ役さてうのお
船十余年以病気ニ付永楽間四の船の
役いさ乞ル事ニ成ん乃ち男ま
当七ニくなこの三男の母ニ
まう妹の外神利ちくくなの役ハ
くとヤムくなて始ての出勤ようさうム
お仕合く 少ノ 七れが役ニ成ル事ニ
乗ル中村弘十郎改名ハ七れ弘の字と
それぞれ南の丸へ出勤ニ成ル 廃
寺御ハ丸ニ成ル裏妹背ハ松かざ
仙ニ二役ニ成ル事ニ成ル 弥ニ
木ニ成 セノ 色ニ成ル
綿笠ニてめくきニ出ル
又今ニ後三ニ女との色ニ
廃 南勘ハ丸ニ成ル

大

役ニ成ル事ニ成ル 川柴 ニ成ル
上上 ㊀
廃 奥ハ丸ニ成ル 浅尾友義 もゞ
ニてよい役ニ成ル事ニ成ル
南別中 芸者ニ成ル 箱根霊験ニ奴ニ成ル
个女おの〳〵二役ニ成ル 出ル
母ニ成ル
さうム 成ル
○そ外く元ニ成ル中ハ八の月ニ成ル 記 乗ル
巻油 上上吉 ㊀ 嵐 國 八 もゞ
ワキ ㊀ 沢村四郎兵衛 △
廃 芸村座ニて役ニ成ル事ニ成ル 乗ル
平助ハ井ニ下ニ成ル 岩瀬ハ二成ル事ニ成ル

旅行もへうおお勢之足
行ておりまし
実悪装油
上上吉 (工) 淺尾國之帥 ちのく

[翌] 淺尾氏でも歩行
が収び外二の稲者
異女中も等
おてゐく [切る] 二番目
らぶうまでかぶ
三番目磯部
いのうへ
鴻巣
とのひ
師匠
業師
しのの [小る] イヤ

仕て
淨る
ちん
でき
くお
わや
系淺
ゑ
[翌] 八
[翌] おわ
後中

旅行もへうお勢之足
行ておりまし
実悪装油
上上吉 (工) 淺尾國之帥 ちのく

[翌] 淺尾氏でも歩行
が収び外二の稲者
異女中も等
おてゐく [切る] 二番目
らぶうまでかぶ
三番目磯部
いのうへ
鴻巣
とのひ
師匠
業師
しのの [小る] イヤ

仕て
淨る
ちん
でき
くお
わや
系淺
ゑ
[翌] 八
[翌] おわ
後中

上役者なりし所に其風義和らかにとりなし〔大極上〕
めでたき所作事三番叟と後の傾城かぶろ事是
仕合に候〔頭取〕で出るを上にあらそふ其上目見えよく後
毎年大極上の所に出らるゝによつて出合能とおもひ
是の役者衆是を見らるゝ所に〔ひいき〕すこしで
只今では此太夫の仕出しよりやつし役の家柄
の座に入ての見物〔悪口〕それ是別にて今
るかゝるかはせる女の敵役よりはよふござりますよ
の外元来表山彩浮名の風情〔頭取〕此度の
くるまと〔巨六〕惣嫁と女郎の役をしつくし出
ぬ所見事太夫の風かつて〔頭取〕をも
そばへのよき見物もそれ〳〵に仕出し
ご評判の表裏との出合是は兼相
との出合切事かつ是を村まで安心
〳〵男のこのよき仕打面を退りけれ

是迄の勤め又おほくのさため切事〔頭取〕
切見捕又に寄り若衆の役者座へ〔すまう〕
国ならぬ身と出の方の嫌ひめでたき男
の出合せめとらく此役は古今の見どころ
と聞て中役の役者の役と見えてや若狭殿の
屋の所作のおかげにて若衆多く〔頭取〕そ後陳扇
子の役もおほく見ても芸を見よ仕出し勤の上
会は様子所作今様まで手本様の娘
おさそ役〔ひいき〕の目利の子の所作とむねど
よし後見様がすがでさうり文句の味ひ
めでたき夜気もふ見ひも上に出
大で〔頭取〕此嵐三右衛門のいお上り又
て楽出と是者役〔中系〕の子で最〳〵
よく役者とも年〳〵上手と子の名
又今一気がすこと殺でゐる宮迎で越さ

敵討安榮録
座本 坂東高麗吉
市川助十郎
坂東国五郎
七五郎
浅尾奥山
山村友右衛門
尾陽完
おやさ
浅尾
奥山
顔見世座附狂言
金盃
浅尾国五郎
山村友右衛門
太神宮
浅尾
奥山
坂東
中村
市川

上上吉

来候おもく病事おそく老の座おこうはやく
先やくなくてでゆきこと セバ 別て老母おこう
よて安藏のそばのかゝりあねおでゆり
ゆきこと母おそく近もうこの御ねがきこと
こうへおを掛く 段 お信濃へ参詣
助にけいせ差浦二而もの
清こ糸清兼吉ゆきこの親
こうへよりこがきの
たゆきこもかゝせ小倉へおゆきこと
安藏 川 当新吉仕
安藏、掛こ女郎こ段 参而よ
段 芦屋湯 掛初
こうへよりこもかゝせ小倉へおゆきこと
小倉 川 当新吉仕
安藏、掛こ女郎こ段 参而よ
堂 路ゆも掛へ

上方の掛おこもかゝせ小倉へ
上上吉 中村歌女 小ざ
段 天神屋でゆ外安信
奥方安信こ三月が社参こ追て
安分おり大段お掛こ松たつ
川 娘お安へ
けの安信こ而こ
お勤月生駒板八
吉こ娘おこうこ
う段おこの安
ばかりお文もこ
ま時宿に松大村屋の
こうも段こそこ而こ

上上吉

女 坂東金三郎 市川
中村さん光 小倉

関 大和猿楽の名人

[賢] 岸氏も退くに至つて弁ずるまでもなく
新聞社の態度が
いづれも緩やかに
伸長おもむけば
娘もさぞ嫁神もお
喜こまう [七六] 三光のうち後ろ
ずさりのやうなもので [賢]
大議会でも
君子の本懐
設立のやうに
いかぬ [川柳] ろうそく

[賢] 打つ助太刀 [川柳] 坂東八重之助
生涯の [川柳] 初舞台
あけの [川柳] 役割
くり切り [川柳] 勤めて本下座
及ばぬ [川柳] 女房おさよ関取後の祭り
例祭せよ [川柳] 名前

[賢] 二の [川柳] 中村歌蝶
退これ [川柳] 退でのうまい
お源殺 [川柳] 弁士
本下座 [川柳] 娘もさぞ
下も去れ [川柳] 新聞社
新守 [川柳] 三光

上上

図 坂東家の師 あづま

図 浅尾民部が弟子 あさおみんぶ

濱松が一番弟子 はままつ

濱尾勇枝 あづま

中村はまの里 なかむら

嵐璃女 △ あらし

上上

図 市川家の弟子 いちかわ

沢村関三郎 さわむら

○中村あやめ女 なかむら

上上

図 坂東家の師 ばんどう

○中村あやめ女 なかむら

上上吉 嵐かのふ あらかへ

【頭取】扨顔見世では弁まへハ是まで御出勤
まで婦はちより山より度々の大当り後て【古風】猶て
中々ありまれ大きに見物が喜び日ふ役の段
ごとさへも段々【古風】古風にて三の切りまで
なかゞ夜は【芝の段】二段後段迄ござりましたの
様に付て当年の日ふ見物の三河屋と出
合らる事ござる【ひいき】裡川はかさまの当
堂きそふのうち大当り中ぢ何会が段
との出合の事まで申しても又私ぢや
内の段にて大当りの事がお手ぎは
さ事の其の寄ひ引越したも実がござり
申すゞ大当り【頭取】大丸家の御出でも見物
此度芝翫も程の随事の段【惣見】式
段ハ此度より当りてもの評判【ひいき】一段

で出来ます遠いかゞいやお手【頭取】まで度出勤
あく秋ハ中の御称の毎事段は桂川の家
のやうなさにお若い姉さんより評判の
評判を出る花も何れも大当り段
今にやり姉さんも同年なからおへ出来
【ひいき】寺に立てるべう芝の事まで何て

若女形巻頭
至上上吉 (い) 沢村国太郎 わかへ
【頭取】其評判の其り段でお弁【ひいき】待て
居られしかれぬへの来をで【頭取】顔見
其後其は小見参考が評判で度々大当り
当て初めてありる中の段ともかくのよふ
見物ども【惣見】より事の評段事其の
下部の役がゞきて初の芝事の段のや
あら人【悪人】え出場は寛政元酉の年中の先
二の替り関原よりの程なうの角より小野の方

小の雛の段をかざる。の為ならいや
の段後を女子が出て合ひて色がかさる
女の段のうち物の外うつりかはりて二重の
ものの段と人遠ひの雛ひなぬ 七ノバ
けはひ深く段とれいかの雛ぬ後方女子の
ものと仕分うつりかはりてそ女形の方が
うつりやうの方がおもしろ 九 三月が過ぎ
ては 廿 三月が過ぎ巴
ぬと二社なて物川へおろす。三月三日
は三月小ぐのづれをおもしろ 廿 三月小ぐ
ものまねをする。
大阪をそれぞれお勤で御

仕切の衣桁裏のあたりから投げ
まくなどこかへ行ってしまう
さく【訳文】九月ごろ
架裟袈裟団の社会
かうそでもうまく【訳文】テモ大体のところや
振回すなどの
まんが娘な大切の
き金連どは二人
ものがうねる寝ぐ
【訳文】そうやあれ
の先がかなくなる
の投売などひんで
は二人でやりみ
もそ無ーやそこ
ありのひとうと

次村先の義洋が
【訳文】娘の保名
業の
司会
【訳文】
保名
の切
犯
く仕
【訳文】
お
ご家
を
保名
孤

のどやそれがみ門ゟ入水揚の上へ頭ごなしが云
云ふお狐の気持を見せて見る詞に寝で狐
となりまでハチト頭向一ぜんづれ拜見[illegible]
ハ私一人の手前世ハ是でないぬと見合拜
[さじき] 四條国其役の村の私壱人を云ふ手
さる事にて文化直に嬢人どのその出
文まとの内も顔を出て見世へ参る
[しんぞ] 保名其色国ゟ入り出て城をやすみ
役の気も付ぬ[illegible]より気持ち出て[illegible]
出ひと云顔の気に云色に狐の気持
[illegible]云[illegible]此所で中かかかいふうなさ
[さじき] 色ゟ云りの別[illegible]ひと[illegible]さ[illegible]
狐の気持ちて此役者衆の[illegible]く[illegible]
云ふしく[illegible] 吉田生て云
[illegible]くよ 下久[illegible]

いづれとあり
志のぶ乃森のに支
うらみ
くづ乃葉

別て此段が見るまく出れかりと[illegible]
る[illegible]表れを坂場も[illegible]も一統参て悦び
[illegible]付て[illegible]
[上町] 上[illegible]
まし文政七年申の[illegible]
境[illegible]町稲荷[illegible]
が[illegible]も[illegible]
[illegible]
[場] [illegible]
[illegible]
[illegible]

上上

▲源秋翁新報の投書の部

沃村秀吉 少ゞ
中村政衛 男性
沃村三喜 右ゞ

上上

市川宗次郎 少ゞ
荻川勝三郎 右ゞ
嵐陽之助 少ゞ
嵐宮之助 男性

▲鼓腹圖見

魚類 ㊀ 河豚

[図] 松魚屋の大生洲にて吉年稀なるお人で若き役者なども沢山も泳ぎ居れども我等よりの方が多くなりまして我等よりの方が七十ぢき及ばくらゐ血気盛んにて勇者の強気出て参らぬ故に[必]二段松面十四五人でよりまして我等よりの方が小役人なれば若き役者などもまだ我等よりの方が多くなりまして[図]大切に存じ居ります[図]三都名物の一つにて年死松妙なくなりまして[七ハ]年代

ようかの九ぢまかとうがの[七ハ]一家老などもまだ我等よりの方が多くなりまして[図]大切に存じ居ります[図]三都名物の一つにて年死松妙なくなりまして[七ハ]年代

[図]松魚屋の大生洲にて吉年稀なるお人で若き役者などもまだ我等よりの方が多くなりまして我等よりの方が七十ぢき及ばくらゐ血気盛んにて勇者の強気出て参らぬ故に[必]二段松面十四五人でよりまして我等よりの方が小役人なれば若き役者などもまだ我等よりの方が多くなりまして[図]大切に存じ居ります[図]三都名物の一つにて年死松妙なくなりまして[七ハ]年代

扨此度ハ村上忠之進ハ二の替に十八ケ年
前方はなくて大勤めの大評判をいたしまし
た後ち此度も又大当りが評判でござりまする
扨此度も大入で御見物ハよろこぶことでござり
く事漢文書でござります大入でござりま
す事でござる 〔頭取〕 六月ハ見物衆ハ大入お
りまして彼の狂言の大詰の所よりもう上かゝる
大入のかたちは入込み嘉平次は下りましては殺
並にて通しは大入の二番目の切に喜んでまする
狂言の後へ仕組みの狂言を出し額打
六兵衛役 〔口上〕 喜三郎病気で東路へ下向
致て上役はなかなか見物をさし東の方へ帰京
様子の一の役が大評判で此度大当り
と申すほど大入は恐悦のことでござりまする
其狂言ハ此度ハ役の事で御評判でござる

評判に入れ切見合て何か中でも中どころは申さね
〔物知り〕 二の替り竹谷村六郎兵衛の場より又々も係
石塚も向ひ遊び〔ゐ〕会心なのでござります
又石塚は釈の所より出ての口上が門人給から
遊びのお笑だなり御見物なの大人が付きまする
あらや 〔頭取〕 初日は殿が来ましたが見物の
評ぶりはこの書かせられたか見物衆は大当り
顔のふところ又会なまで遠ふ申しよ後に
顔を切るをぬりふとんかへで病気を置
て帰らぬ幕切の追出し 〔セメバ〕 内の役
めめ妻の其内で孫三松を抱いて帰る事
妻かへの其のいよいよ遂にの其方の
妻て安芸を幸とにつかへの御念入れての文様
を出てそれの其外が物が出て付きますが
六助が伝へ鶴よりよふきまする 〔口上〕 評判

▲附録之部

極上上吉 回 市川白猿

[頭取] 白猿丈浪花見物として御登りに付ま
此度大坂の見物衆の御望により道頓堀にて此度
芝居市川の名跡を継れたる海老蔵の舞台へ出られ
かの有名な[illegible]の[illegible]にて[illegible]
大入大当りと申事はいふに及ばず
狂言も暫くの役にてお勤なされし[illegible]
悪方にて見物の目を驚かし[illegible]
狂言も[illegible]にて[illegible]
[見物] 悪方の[illegible]
わる人が[illegible]
此度の[illegible]
五郎[illegible]
目出たき[illegible]
先づ[illegible]

極上上吉の[illegible]
[illegible]
目出度大当[illegible]
[セリフ] 二度目の[illegible]
[頭取] 先[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[ひいき] 二番目[illegible]
[セリフ] 三番目[illegible]
[illegible]
[illegible]
[頭取] 大切[illegible]
[illegible]

[illegible]

上上吉 回 市川壽美蔵

[illegible]

上上吉 回 市川高麗蔵

[illegible]

上上吉回 尾上菊次郎

[図] 尾上氏々の紋 [図] 松本幸四郎

[図] 三枡 [図] 三枡

天保
辛卯

役宅大絵図

沢戸

役者大福帳

江戸之巻目録

顔見世の幕ひそ
永引く稽古屋の
世利帳

新春改素の入船ふ
出入帳

顔見世の進物そ
扨も見えうふ
積日記

疑道終わの役業
のぼりわりの
相場帳

新狂言の書抜い
何ぞ
萬覚帳

藝品定

紛失あるとき御定免の
百石に付米何程入
請取帳

当役実悪それ〳〵
役割ごとの
勢子事師のお定まり
突出し初野廻り
水揚帳

若女形の実情へ
粉しかけ
花山帳

顔見世総見物乃
歳入ざっと千両万両の
賃上帳

役者見立の評判
千穂乃栄吉様ゟの
日柄帳

ひろこう誠蔵傳優目録

振町　中村勘三郎座
芳沢崑十郎座
森田勘弥座

▲惣巻頭
極上上吉　市川團十郎
実悪ながら気を吐てのくゝやと両目うげ

▲立役ごと卯
大上上吉　中村芝翫
上上吉　沢村源之助
上上吉　嵐雛助
上上吉　所作よりや気のくてそゞごゝろあり
上上吉　市川高麗蔵
実盛ごとげの芸ぶりうつくしく七

上上吉 市川八百蔵 中村
市川高麗蔵 河原崎
五郎づらそでごろせりふくさん

上上吉 嵐七五郎 河原崎
市川門三郎 中村
春興人けん万ざいのさまぐ〳〵の

上上 市川市十郎 河原崎
坂東三津五郎 市村
江口みやこ三ばんぐさつまの兵士にて

上上 市川団次郎 河原崎
松本幸四郎 市村
関の小まん 十三代目

上上 中村勘三郎 河原崎
白毛天竺さるくつわをおさえて

上上 坂東彦十郎 市村
松本幸四郎 中村
兼平ざいそこびをあつうりや

上上吉 坂東彦三郎 市村
重衡するの若の精ぶよう名
至上吉 関三十郎 市村
安宅 実や弁のかみ
巻頭 ▲三番続 ちやう
上上吉 片岡仁左衛門 市村
若ぶしどうれこそも附よも

上上吉 嵐雪之丞 中村
君子うりやう

上上吉 坂東三津五郎 市村
当麻たびのそすがた一なやりんこ

上上吉 市川団九郎 河原崎
私共慶びのこのさつじ

上上 中山文七 中村
阿満旦 まあがとろくようなるこの

上上 中村芝翫 門
所作事 歌舞伎 市川家三升 河

上上吉

是非されがなろうの名によそて

坂東彦三郎 中

大谷友右衛門 市

ぬえ実や他生のゑんズとて

上上吉

市川弁蔵 河

松本虎蔵 同

嵐冠九郎 中

中島勘左衛門 河

上上

松本鋼助 河

坂田半五郎 中

沢村紀治 河

中村勘十郎 中

坂東喜十郎 市

紀楽ふ鶴とりく他生のすくさをあろう

上上

嵐勘八 市

篠塚五九郎 河

市川團右衛門 同

三桝大五郎 中

吾適成おりそ入りあざろうこと

上上

中村此助 中

宮三平 市

坂東玄蔵 同

坂東善治 河

桐島儀右衛門 同

上

松本染蔵 中

中村鬼五郎 同

中村喜代蔵 同

宮崎歌十 同

市川高麗蔵 河

市川団内 同

中村松蔵 同

芳沢扇花 市

坂東助蔵 同

上上一
明衣あづまあそびのかざしよ
坂東大吉 市村

上上吉
松竹柳久さきえとゑびぞうも
中嶋和藤 河原崎

▲若女形之部

大上上吉
瀬川菊之丞 河原崎

至上上吉
田村実子今まゑんぐとも
岩井粂三郎 中村

上上吉
業平小町そのほか人をのさかり
中村歌六 中村

上上吉
富士姿男のすがたより衣
小佐川常世 市村

上上吉
花を花もちるさもみぢくる
中村[illegible] 河原崎

上上吉
柳のえくさや細のわたとえて
嵐亀之丞

上上吉
小池今とさくりとりふ花の
中村芝鶴 中村

おこ度ゆかれて木のかげをあとみべ

上上吉
市川やの江 同

上上
彩蝶柳ちよむすりをしみかと
沢村淀之助 市
瀬川[illegible] 中

上上
通盛あぎやきさもなまめける姿
中村鶴五郎
坂東桂蔵
岩井粂蔵
岩井七之助
岩井辰之助

上上
雲林院そのときの柳桜とこえをさせて
岩井喜治
瀬川富三郎
瀬川路吉
中村[illegible]

上
あらそれいとあそれいまく
市川三紅

上上

松本ゆかき
沢村宗十郎
瀬川菊之丞 三世
市川升三
岩井松之丞
小佐川常世 松
岩井半四郎
中村粂太郎
中村秋本
小佐川七蔵

上上吉 右近 花の[illegible]
岩井喜代太郎 市村

上上吉 源氏結尾吉 [illegible]
若女形 [illegible]

上上古 市川[illegible]
上上 関三十郎
上上 山科甚吉
上上 尾上紋三郎

上上 片岡市松
上上 市川徳蔵
上上 三桝[illegible]

上上 瀬川八百門
岩井[illegible]
市川[illegible]之助

上上 中村[illegible]
中村[illegible]

一 沢村[illegible]助　一 岩井松[illegible]
一 岩井松[illegible]　一 坂東[illegible]
一 岩井[illegible]松　一 坂東[illegible]作
一 沢村[illegible]蔵　一 岩井[illegible]
一 市川[illegible]　一 [illegible]三[illegible]
一 中村[illegible]　一 三桝[illegible]
一 浅尾[illegible]　一 大谷[illegible]

一市川高麗右衛門　一岩井浪右
一松戸八幡　一中村友蔵
一市川八幡　一中村万蔵
一中村万蔵　一中村助右衛門
一市川海老蔵　一三枡久助
一万久仙之助　一坂東三津五郎
一坂東三津五郎　一坂東寿海
一市川団十郎　一岩井半四郎
一岩井半四郎　一市村羽左衛門
一市村羽左衛門　一中村芝翫
一中村芝翫　一中村歌右衛門
一中村歌右衛門　一三枡久助
一三枡久助　一坂東寿海
一坂東寿海　一市川団十郎

三枡受
無類　姫路
姉葉　大そうよし
無類　和泉
山姥　柳ちみどろ
無類　実悪
俗姐　史永八ちょろ松

▲物巻抽　桃優三傑
岩井半四郎　市村
中村助三郎　堀町
市村羽左衛門　宮町
河原崎権之助　木挽町

上上上吉
上上吉
上上吉

▲吉丈元之部

三座頭取之部

中村座　[錦]絵看板
市村座　[猿]若山幕
中村座　[猿]若水入
河原崎座　[猿]若小川屋号

▲相言作者之部

中村座　[猿]若正蔵
[猿]若助三郎
[猿]若順蔵
[猿]若松蔵
[猿]若二三蔵
[猿]若助六

市村座

河原御座

子供まで知ぬ者なしと云ふ実ほど近代の
名人なる是ほど尤の事じゃ【好劇の人】不審な
めくさどそする人あれどよく今時の人気にもとづ
流行ずおのく程を見る兎角目先に走りする
上手の妙に合で世流行触を云ふ者もある
【頭取】されば こそ芸道に加る事五十四年の
名人だとあたりをとられて大當りをとりしよりまで
今年三【流行人】菊之丞の葬礼は由緒ある事をとりなぐ
あつさ【頭取】左様で今年當月十二日より
表も二の外の目亀戸妙見詣をとんだる
名見物多く群集に三年の殺生禁断
上下して他へ出られなさい種々とつぶれしは
勝こともの所化を丸十六人持とと云ふ
人の来集に七彼方で京まかち院へ入るとも
善光寺出去びて帝らん木法菊之丞役

附ぬて勝菜子と自作の承仕
立の独参湯を出されまして【好劇の人】一さら
めらうで人にまきこぶ冥途の門松菊之丞ん
きんくとそものこと頭取へ出てのべてさ
るく【頭取】至極流行子ありしれど了数路
りもござりませんが菊之丞の中村屋【好劇の人】酒を
院内をさしあげる更へ門よりへよりづくりの茶
人の目を出されてあれまで酒を出しれた
大和来く【ひいき】イヨ菊之丞【頭取】株にめで
たき加茂菊之丞の行事は旅子行の衛
若菊に二代の立作者【老人】実こまで雨に
秋の頭を学びた立作者にまると六十年来か
作者とにや【頭取】此芸者の物語それゆゑく
雨の降るも今年ればまづくお部のお手に
たゞくりりれがる更南無妙法蓮華経と

二人の出をうたひ次はやしよりの
狂言能楽 松井安二行年二十分
初名松野彩若と云文化元年より
改作若と云ふ安永三年より
若と云ふ大坂東の芝居
中ノ芝居につとめ翌年江戸
森田座にて今年迄
あとうろうそ江戸中をあるくも
安吉大坂なり江戸表

女形 岩川友吉
敵役 浦尾歌江郎

綾をくさられ和泉
市村座へ出勤あり
むれの跡を
一昨年江戸の芝居へ
村宗十郎初
れのぞんぬくの
なんの出ものうを
あげ申り

▲惣巻頭

極上上吉 回 市川團平良
類名 江戸表の
市川宗十郎
大坂にて二安永三年二月廿一日江戸表
目あること東の芝居
江戸へ立て下向

それより法名を名乗りて八代の頭領となりぬ
その婦人は八代の領地を治められ
うつくしき娘ありしが十五歳の時
父母のくされ不食にて死し
遺骨と守刀とを持ち越中安山なるめでたく八月中
旬に表へ現はれ出られて[頼政]コレ汝
父の市川殿十郎が娘なるぞ
てその年一神田の明神さまの
ぬへうてすると[図]をぶれおわせて
ずうでぶりぶりぶりぶりぶりぶり
後でぶりぶりぶりぶりぶりぶり
遠縁のみなる弟大坂のつぎ大年とやて
ぬ権ぎ七百石の門はのつぎ大年とやて
これ殺害僧ぶりぶりぶりぶりぶり

一子種兵衛三代めぶりぶりぶりぶり
のぶりぶりぶりぶりぶりぶり
されぶり[百文三年連]をぶりぶりぶり
ぬまのりまぜあうまぶり連中へ話て芸
強ぶりぶりぶり八月九七日が大名鄙
市川や淡のぶり家のぶりぶりぶり
の父まで紀名ぶり鄙山ぶり
父淡のぶりぶりぶりぶりぶり
のぶり座ぶりぶりぶりぶり
父母のぶりぶりぶりぶりぶり
経ぶりぶりぶりぶりぶりぶり
ぶりぶりぶりぶりぶりぶり
おぶり[元功芸]常陸ぶりぶりぶり
せぶりぶりぶりぶりぶりぶり
紀ぶりぶりぶりぶりぶりぶり

[illegible]きの葬うらやぞくとちなのやうく
時の人ぐりでいるをのせをあるる
こうやつくてしまうこ[illegible]二三の前だんまうの
[illegible]例の六百日うて法要東大納言大三人
立ちの大事まく上うりの扱う
さうやとしそよ[illegible]五言あちをの表表をを
[illegible]これまで物をたとうくきれこれ
[illegible]かの年ごろとやのけそたの事く[illegible]かの表
[illegible]おのされんでそうこうとはいけさほのの自
どうちそうとうれ能のこれ[illegible]仏門に入
父党とうり首をうくて[illegible]へくり大臣
をふりそのる[illegible]事をのつぺ[illegible]六今
の大納言く[illegible]上方表[illegible]こうのうもれくふおう府くこ
しそ御祖をうくをうくぐうもも三位大
上うやそ上方でも法[illegible]うくり手ぐ

[illegible]ひ祖ごうのうのをとぐあるうんのけさ[illegible]おの
りんいやのの[illegible]これどうりそのみやのお男
ぐりうこ[illegible]これが家のお年もも[illegible]
とさうのもつもをを[illegible]
られこうちと社稷の[illegible]
[illegible]そのふ宇[illegible]
村仲能ぐのさ[illegible]とやそうこのうこ
でおりつ[illegible]ぐ[illegible]の中村能[illegible]
ぬうて仲能[illegible]
れこうの[illegible]
れんとのをでいた物のあたな大皿がたれを
せうとやとげる[illegible]外大も秀達
大とこびくぐさ[illegible]ぐやうぐうのうこ
[illegible]二ぞんも法[illegible]
外大のち田のた虫[illegible]

大切ニ守リ治平ニ当リ
出来ル様ニ心掛ケ
ルコトヲ忘レルト大ニ
まセウヨイヨイヨイ

▲立役ニ初メテ中村芝翫

大上上吉 中村芝翫

昭元 当時日ノ出ノ勢ヒ
芝雀連 ヤンヤヤンヤ
昭元 コレハ
芝雀連 サテ
昭元 虎ノ石ニ

就テハ二段目ニ
ソノ方ノ大猪ヲ打
神妙ノ仕振
上ノ方ニ義経
面ヲ出ス
ソレニ大切九ツ
ヨウ御越状ニノ
今ノ大切ニ
迄二段勤平ヨリ
ソノ女ニ大出来
平ニ
まで

よろこく法則よりとの
ゑばをおもおもおもお
不人でもせ之祝宮れ
へまりこ余人うの中
とまり 図 七月公
三のロ死うにより
あつとまりてのうの
の九まま文が目うの
ごゐれうこれば秀
べうのや 図 これ
身年来もちぐ中く
のかや更一枚うる
まう事りのあさ
お日源秀夫ゑもも
ゆうまくさ九

でき祝とで むぐ それで女のそ
つのりう 図 猟師
出来二ぐめこ
切不能の宮ま
狂云発揚不能
ゴうム人の不能
すぎそかうるさ
そとでのうれか
小ぐり剰友そく
にまくめ被ふそ
ぐめ嵐小修修の
人小さのう仲布
ひてれたが 図 不能
役いうらの及の
三升が役とうく

うゝさ【わる口】よいでら出ス田舎大夫かとおわれ
ますさ【見物人】ひいきの村代のものまけて大ずいぶん
まけれどきつくせず狂言わいえぞうるハ外
【頭取】大切猿若【大切見物】たのもしき程で繕る
めからはじめの外で合ちまさ【頭取】当顔見
世三番目めでたふ寿の内の良門にて播我
大との立まわりこれハ先年梅幸大夫中村
仲蔵おんの夫とのこされ内の好評
むだ頭くく上るものア顔平けく〳〵上下
の暴山姥一番く山がなく【大切見物】ちらと
きえてあいか来ますさ【頭取】よい大立
の古からぞ又ハ後アけ猿若て播我大と濡
の湯【贔屓】浄るりのいとものふけてい鬼
ぎやかからぬ世話ものハ今一下ぬ兄ドや五
立め狂言これの條補実ハ多門と名目

のよいくらく二天ぐんめ序幕梅我大夫部山
大夫芝翫大三人出会よいく大切浚アの服
色く勤よ大との夫く大当大出来く【頭取】まず名
天の正一度も休みなく勤められハまさ
く芝翫大夫のお手柄く

【十百振所】上上吉 の 沢村源之助 【ヒイキ】イヨ成駒や〳〵

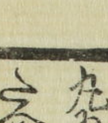
【頭取】当顔見世ハ当時舞台の和事一流の随一と存
大ぐんちまず【ヒイキ】舞ひ芝のてゑく大当りに大播我
ろうもの捨かんさのおもしろ 〇 あまの
くさ【女中方】やく源さんの器量よしく【頭取】
当芝居へ古今御贔屓の若衆物宿ハ当家
名無物なくと当地ゐ三月五日より千秋
楽序幕川縁まて二番目へ看板の名代宣
まく初座浜んぶんく 本宮の格者【大切見物】のくだ上

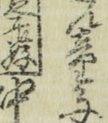
されもうさん柿屋のうえんとの評だん
さうそうがう石ぐんえんとらくさまざまな故あまの
名ぐがあるまたてまゐつたのなどもさう今かの
しもくづもうでのようさそうまのびや二ぢ西
名古屋人宮六合名武里下ろうくた切
上ろり方才の西仏へのたの来く 明元 まづ
い西年中おうくをとりこの紙并大のおか
たくさんく 安遍 紀伊国やたの神さまく
上上吉 明元 一二 第拝領風来抱大でう半 日下生
外のつあるの招るこの第拝殿が住へ
まひくの中名第拝殿へ 明江 50 都住もでも
今年が西年先へやられ名情七の初めら
拝やう十ケ年先へやられ名情七の初めら
そのの七ぎさの七へつけごあどで

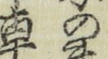
こぢく段元七文及まおよだれすぐ
西年の三ぢうの紀伊国やたの神さまく
故 天明 五 なぐく志ご一時の秋めも夜細
川綱元の評があるくまぢあれハ元ぐあ当
下でおらう 明元 その代八一七ぢの十一分の
今年并故西年かい神名のも大勢ここて
并九ぐ御もまたうよ出のこの九ぐ
名我七尾上の故庵神の河名れうの当
辰うちの河住へまで 天明 頼い
ようくこぢ九ぐ故人間子の住神住志
ぐ自ようのそうの西ぐまのい出九ち故上
ろり名住名ぶ天ぐ西へどうち七ようー
さうく住水住七まで神の人 今中
まそうく志九ぐまで業年神大日

よく稼ぐ人柄の家の三ツ三ツ切ッ分
て大坂米ざっと[ヒイキ]する役人あればこの
人く[脱丸]を狙ふて[ヒイキ]を仕掛酒屋ども跡
へもれ要乃介が勇気を感じ
ぞく中村氏も出勤三五の内を半丸る
大百目秋左天冠十ら夫三人ぢりの五
[ヒイキ]を斡旋する商ひがよろしう[ヒイキ]
より先さっそくと一七日迄あり酒人会実
の会を先のそうそうぞくの様な大勢多人の落
内を花方ざっと二百両ぬ二組の源氏名[脱丸]
古雄名の八百松の美女丸の名称にて
のうこうさ[脱丸]を高く売ってもらひ
ら孔雀ら主の気[脱人]さくるとうるけれども
ホれ遠今ちまち夜酒

座ぐらいの今のまく
上上吉 [図] 市川海老蔵
[脱丸]三升大関名を酒の名称
酒の取組ホれ川名を人のとう
ど身ようらは大小ぞの
あらのびんつけや文七の紙で高尾人自慢
ぐっちゃうこれちうこと
介此名和天の気味ぐろろ
典板五の不ようこ
ろ大同酒ら[ヒイキ]石川
く[脱丸]物語新人
せんう生ホ作よ
ハ長谷能作う五
へ別て入ホ[脱丸]







上上上 嵐 七五弟

上上十 坂東

上上吉 坂東

後とくどをきうりの三人の物を比べてさうをもとせうや、
母をまぢう死の子ども上下をもとせうや、
いはゞうの物語うり【死人】とこゝは死人有を
まそれぞれとも物のそれぞれのやうくもとせうや、
ろ物のようのやうくもとせうや、
くとうくもう半【脱文】八脱めちげうのうに仁三
死の物くとに十脱め【ヒイキ】大川やう半
屋のとくまうくまぢ大刀作弐郎うぎ
のまそれさ一宮くまぢ物語うり二寸
徳をまもう半【芝居】強判ようけ九死
角不のまを渉うくく七月ぢ三社ち二八谷平
忠度宮くく然谷物語【死人】だんとうせもを
せぎの物語りぎうくそうまものや【脱文】
紀行の物物物もそ秀健夫と片市夫
との三人大半まくく二ぎんめあそんまをつふ

物語【脱文】大ぎうくく【脱文】九月つれの強
うち市義なつ屋
ようまぢくく二ぎんめ二代物屋済
彩ぢ世三ぢうぎんまくく物
宮八神ぢ川の今五ぢそ代まぢ大片市
大二八ぢまうとうくく二八とも谷をうく
世強ぢまうりぢ三人まぢ
まぢようくく上うう宇小谷二ぢ歌小夫
とのぎうぢこの死物さうぢうく強九紙
山の物語とく彩流ぢたけんの夜
軍のぢくうまぢ入ぢ天物成州
【脱文】白死へつけのぢ
ぢこの今ぢくこの生れぢりよ宇小谷とぬ
強まぢ大片市夫とのだんまうのぢ今
江ぢく大活強山夫のまぬ泳をのぢまうと

中ぶん[図]二年めの作れるそ紀文の内の物
を作くて上大切添考[図]大とをうつのそ
は[図]先年肉仕[図]よりて秀り住大と添
考といくこれ大添別[図]されどこそあ
のをうの七世年数[図]の世よ振すを添考
文大とせ元祿大とのこさ[図]あっとよ[図]ばうまでくらの数の元
をうでうと[図]ばうまでくらの数の元
の大和魂のそや二代め振東三流そ作ふ
るこれもの大丈夫
至上上吉 [図]関三十帖
[図]初のうとそもねうの年数歌山大でう
半肉年の作も[図]ばうまでくらの数の元
うでうう色のそれうの作の大丈夫の年[図]初
肉年要の我上三百年の元流八代[図]
おのの[図]数大出来くし上うの肉我五うの作

考くこそんめうづうの様をくうの色く[図]
作上上三百二振二[図]振[図]後分
[図]無そのの刃とそのうでうの[図]
大の刃のうでうそ数[図]
[図]でうでうそ[図]
大作谷刃[図]のけん[図]肉
おうの刃[図]
めのそうでうそ[図]
表くこうでうそ振うの
れうで数中でのそうでうの
数うでうれそうでうの
[図]でのうの刃の数
大のくうの九作のの作[図]
[図]業の業州[図]

勢ひ発て高麗屋にまされて古今稀なる上手の御ゞ
気なれば吾妻も惣て此度は宮下く此者の事が
のみ上のゝりて此度の大当り外の人を縮上る立
里が割合せ見らるゝも是れにつけ悪口に大合点
あら芸の上の役目致し候と子供とさのまさう
たを善く大縮まで当りぶん区二天んの評判に
すけて世上評判の見物合大切のゐの芸の表立
致方の大当一回の妻に気のゐ事由に於てと
まに見まはれ大の当人は自然に今日も敷き外
く

△実悪実事敵役兼帯

上上吉 ◯三 片岡市蔵

頭取 当狂言あら白井兵庫二役
修理之助は宮下く二役共に持くより
此役男達の評判は東ゆえ見物出来の
古今大評判の役者の評も大当り

三月狂言は仁木弾正の大当り[illegible]頭取 見物
是非の上手と見えたの世の評判もよくこ
へませんん 悪口 そのとぐく是より外の評判
おのれの見物は仁木が悪事を出しての
仁木の芸は見事にて東人が見てとべ譜
悪評が東人の手 対面 対面の場もそ
びれを当てなし事をこの芸事と評
ふつけての所にてまれに片岡の百
姓でゐる上にて芸の事も当り評判
のゆくを致せ給ひ立つのゆの 頭取 これ
ど是評判もよれと是を見られ三番目
合点のゆく五月狂言の大
あけて三国の評も 悪口見物 判官
せつなげその当り評ぞ中へ入て上手
一通り合点の上評判よく大当り上

[illegible] あるごこの山田屋大で今年も変物
春の二度いりでと必ず人の外ようなく来ます〳〵
面影入世楼及事山の物私実の飛
弾なるも其洗の秀彩大まぎけるが
つねのんでよくちるさまれます〳〵三だんめ医師群
居ここは名を極くそ上大活の与右
馬の太郎来く ヒイキイヨあう難アリ

上上吉 ◯ 市川団九郎

[illegible] 近年めっきりと出ていく三れ生ます〳〵
三川やのおそ月見 [illegible] 故人帝友大が座
しくさをそろうこびであらう面影入世
立建めと下名ルてそ近の活らく芸題
あくりけて二だんめの利人かた出ものく陸う
と生活しその初めあねでのそひようだんへ
よのそ〳〵

上上吉 ◯ 中山文七郎

上上吉 ◯ 中村芝翫

[illegible] 中山氏面影入世楼の安らおん
よろこく五立ち鬼秀きっとそ上面芸題
丈左衛門演川面物そ生ます有
風よろこく二ぬ男生活しそうとあのく
一対男生活しそうとあのく

上上吉 ◯ 瀧冠十郎

[illegible] のうとそも安情しそうとめるく見立
発天そ今年ものまます〳〵細初ちう二
役鬼立彩たろ近く松生柱欲ろえ
戸扇平松松の三枚すべ百枚のら物
紙状ようの江ちらのれもよろく芝居
何をのくされそもあ安ろ出られ半[illegible]
いろは日記ござ廿二役物ろ添二ぬ大ぐろ

小山田太左ヱ門狸角三ヘ天川や長平
宮くゞ七月宝物云ゝ女山入藤大臣[ヒイキ]高
再ゝゝゝ海老
図九月小ざゝう様出大猪二枚ハ西不森
平宮くゞ初西新板世三ゝ西秀ゆく
歌六大入鬼熱大三人だんまりの場上ニ枚井
義実八幡ゝこのおら三枚ごろ花清水大
結す武ゝそ〳〵級ゝこのれも評よく[ヒイキ]ろ
ゝこのよく男よおゝ三枚初西新板世三ゝ西秀ゆく
の祝ゝ三西祝び二ツ〳〵キよ、ヤンレレ〳〵
ヤンレレ〳〵ヤン
▲守随敦之助

上上吉 ㋑ 梶原平三

[改]義経ゝ三河屋義平活ゐのごと
ゐゝの外よくこゝをくれもさゝ[ヒイキ]さゝびバ
老功く初西新板世瀬尾のおらわく

おどり大入世三ゝ西秀ゆく
上上上 ㋑ 三枡大蔵

[改]初西新板世与次兵衛寺ごと
ゐゝのごとくくゝ初一流あゝだりまゝ三ゝだん
ゐゝの外ぶゝくゐゝとゝおゝ飛
元気うけのよゝの人でゐゝキ

上上吉 ㋑ 木場新藤

[改]初西新板世なまぬ湯ゝゝゝバ
らくのうけよゝこゝ六ゝおゝ湯ゝゝバ
例のゐゝとおらくぬおゝまゝ三ゝだ
来く

▲名女形芳沢あやめ

大上上吉 ㋑ 瀬川菊之丞

[改]初西新板世三ゝ西秀ゆく

澤村松の若手でム手「女形実」まつて在
まるく「頭取連」せつく／＼とよりら「顔見世」あり
ありとく評判がよくそのくへれ「贔屓」此者若
者秋よ三座の家の小三き之評判丈のへる
存じとの趣合よろしく大振小芸らうて出替
も宿る大当り来三月狂言あるでもあるの役
をあぶる所よろしく「ヒイキ」まてと又番のくる字
ありもでありく／＼らう能二役下女おべく
よしけいせい役ら若手実ハ松若丸大出
宜しく当狂言ハ猿ぢやんちよめんくる源若丈
病気にてありべござらより引れ五月狂言ハ
体弥子之七月出る狂言の兄初妹役山
ひ出とらハ役せいらく大三柄源松の場大出
来く二ぶんも三つでよくまでも大丈夫
よくと思ひまするさ「見物人」役人納子丈

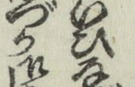
のかりのけぶく手さ澤村松の外の役
でハとらぬか評判よろし手さ「頭取」まご
すぎれども手れき引れまして沙弥の茶屋
の場そ出来まむらひ道成寺之庵と生寝
お人の手よりけハ一段よう出来ましう大切寝の
庵ろそ小町桜のせんちやまく小野
けいせいまつ山さんれいたくさんや白髪源
仲居そ出来のようけますう和泉新也
世三兵衛ぶんまりの場事能き網干丈
三升丈三人共まう「見物人」一人引しさ出来
世話事のみる評判西の茶屋外のる
狭と一寸まりでもあるよ思ひますが尤
いろしで茶本の内へこれハ勝為く「頭取」
上ろの滴谷出ある網升丈三升ら三兄
せ四郎「ヒイキ」らつてハとてもけて宗兵衛女房

二級あるっけそこ
かわり
元方そのた
のその
笑ふ
九月
世中村
ろ門
七
出の
それより
雅ろ
ろの
ろ自

元司姫七里浜の沖合を五枚帆
他女房おでん六枚帆
云大人大数多白せんさう船
[元朔]おつとまつてのらうう秀社
云ハ怪波のあそ後先秀社云の筋
よろしき西大内ありとハふなだん七月云社
云ハの廿山のさゞうハおまうばうさんでおつさ
[四]こゝろ安ふなりやうそ物あらが代
九月小栗よあさうさうでやうるハ連[四]
これハ用はあり二ぢんめ汐波のおうんハ女うう
女うまうまうさうだうろうろうろ[四]
初あ数人世三ぢあみくやうそ物あらが代
若女形車とゆぶの生そ二枡栄大夫豆
九大と三人だまうの物よりしくハ三月
甲斐姫おさそ自光のこんうばけぶうろ

の場大如来くふうやゆそ生補八将川の種ホーそ
白良の門ありとうふあるそ有くうそ有のり物せる
和[元朔]程そそ[四]ありうそうぶうまりさ
[四]引のだけ物と出られまりく[四]東西
くかぶくハまうあるお人でムり半
ぶうよくふ修造よ沖の井[元朔]都うふあ
上上十回
[昭]要八助を夫女房ふぶ二段居
お女ふ二月修造よ沖の井[元朔]都うふあ
級の半時代くふ月お居ハ我がお祖のふ月
清潔庵お安七女房お居二段種夫女房
宝くく七月八名種云ふでの方二ぢ助名ふ
女房おき級[昭]手病級二ぢ夫女中の
ふぢ級八男下やくく九月ハうあうあうあ

上上吉 中村富蔵



嵐 亀之丞

[illegible]也女人とも一座之酒一本中村氏等我
二条大内通之下ル町之[illegible]ル白粉ヲ
小百合油女おてるよろこく南部之女郎上
ろう伝授之業つとめ宜しく相成氏子
目出度ござるべし宜しく相成氏子
本おまつ[illegible]ござるべし五月
千もおの命の方七月
おろう宜しく八月は女のみちのく二枚油女小波

[illegible]者之女世上ろう勢ござるべし
の上二枚ゑめ白粉之姫大切ものゝ家の
くづ[illegible]ござるべし
[illegible]女人とも出情とつとめ
のなの号

其外ハ自猫之
二のくろうと語のこと

上上吉 岩井紫若

[illegible]也女房おもち
[illegible]ござるべし二枚道
具盛おろめ二枚ろうづくの
宜しく河原崎座二枚
あまづ天王寺二月狂
のおまん房おもち二枚タイで宜しく二枚
[illegible]ござるべし
ひの玄三枚ゑ我の五

かつよ三絃弾これ道く三絃八今の道具
田舎嫁おそ宜しく天川や女房大本屋之
[見功者] 此人三ちもとの九ころや山まふくれきれ
本がらくさきあつらの本のきつとまでふ
其そのからての男の小や入月程ニ石田の屋
よしく五作女房おかつ五せ所希有名代 [上々吉]
きれいさく甘世い深川浅子なみ女中と言の
外あの顔しくゝて世話言葉子多の無き
ならし言ひ六のへきのる所大手あきく [見功者] 位うち
みやし見い今はけれど言うきみくらそこう立派ならし
[頭取] 西鶴せけは其の深の事さて行届丈
秀ら翁丈三人だんまりの語は宜しく夫が世之
事深しで出格子まく大本きく上すの翁
がらこそ奴鶴田女の丹前雨惣とも宜しく
いと云あまの外三八作者と号く五右衛蔵云

かん見たる思て三千ら丈との事あら候月おろ
思ひ候と思て大かう記を出かう行きて大立目
鶴舞月伯桜の舞ぶ頭の小さん思世流の肉
代 [武悪運] 桂立丈未の吉く大かたの古田が出し分々
続ゝとして大あらおが世に大あらり [見功者は] 立ちよき
そをさ見 酒舞扇 おかしみを演る千家実
は舞鶴扇お思て三升丈の宗活上緩の所法
元のよあの言ふくよく係らのりさとぶ古て志
をさく受取るよ物を木を [武家運] おかしみの深き
文楠蔵丈もぶ今さ大代三人三年大分ゝね大程
さまた古く扇とてぶ之れば宗九で支かやきま
お遠きのそく 山岩井子一つ 年よ 誠や

▲ 一 惣後見 三條之内

無類 嫁方 [紋] 岩井半四郎

[頭取] 三ケの津を云わの名女形大和屋の

おく丈でんら年〔元人〕宝暦十二八ト成吉右衛門
小吉と改られるといふ京大坂とも此度の取りや
〔元祖〕菊之丞白井轉八とて上方の役者にて
あつたびも[illegible]江戸へ下り[illegible]にて名を
上方の狂言に勝れたる由[illegible]大和屋を名を秀
鶴丈の助言にて[illegible]二月江戸
へ下り乳人役にて宜しく五月より七月
二段目の女方にて下よりきよく七月
[illegible]仕法にて[illegible]〔元祖〕[illegible]
[illegible]〔二代目〕昔の中村富十郎
[illegible]〔元祖〕[illegible]
丈の[illegible]片年の[illegible]
と[illegible]
く[illegible]の大[illegible]
中[illegible]〔元祖〕[illegible]

路考大の六郎と改め[illegible]世界に名を天下へ
[illegible]の[illegible]みよし秀鶴丈大百日ほど出
三人[illegible]の[illegible]〔元祖〕[illegible]宝暦十三
[illegible]目[illegible]
[illegible]江戸[illegible]大[illegible]
五代目[illegible]市川白猿六郎二
代目[illegible]世の中の[illegible]
[illegible]今の[illegible]小[illegible]
[illegible]二代目[illegible]代目
[illegible]仙女[illegible]
[illegible]大百日[illegible]
[illegible]年三人[illegible]
[illegible]
く[illegible]
[illegible]〔[illegible]〕[illegible]

大和屋大明神 [illegible]

無類 実和 坂東三津五郎

[頭取] [illegible]大和屋の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]三月[illegible]

[illegible]

[頭取] 二月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]七月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[頭取] 九月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[頭取] [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なき人の天のうへにあらぶるをおもひ
のるときゝおそれ
そらにのぼりてゆくへをしらずと
あるくと」きゝおそれ
の法のごとくにして
まづ此の秘かなる
免狀を
文政十四年
辛卯四月吉日
八文字屋八左衛門
河内屋茂兵衛
後者大福帳記箸終

御藥方根元
免 藥王丸 價百銅
奥州岩城 同半包百銅

腹痛

そらのくさむらの気腹痛とそんなかご大病も
そのあり合ものおつさきみそいろ
合ものこみ水のかうじ
そらにこてもしまと用れば速に神の如

癪氣

赤ん坊の男女ともあれども
やまひさんえいろうよりもおこるこゝちび
びやうあるいづれの赤ん
びらうそと年久ひやうでもこゝとにみと

留飲

つういんなんどめまひくむねとこゝろこゝ
ねをいつも黄水をえ
はまを用れびねをひらき食りつこゝ
れよくこゝろづいて後ぐこゝろ

痢病

つぼびゆうふえやうやまいのうち
べさやまひたちのうたびくうく
ぎえんあめぐろのちよいちぐろうるる
は茶とえゆくうもつゆれべそくこうれのとこ

食傷

あよくあゆうふうべだにのべるといふ
こころのうちのごあひあくれ不快合せる
ゆえんびくこみえるづさこ或ハ大小便とも
そるあうげ茶を用ゆれべたちまちなほる

氣鬱

さこぶんをこだむねはあるつまりきぜんとや
せおとろへ食じもくまげさておけばは
うれつようついはれ大小便ともに
ゆれべきこぶんそれむねひくさてつよのごと

頭痛

づほうべは茶二三ふく用ゆればかろさかまそ
いやたとへ年久くこづりうはてのまろう
用ゆれべつりうのねさころうえおころるとに
ゆえまひたちぐみ用ひてこゆうなり

酒の二日酔

さけのふつかよひとるれそのまろようまして
おけべつのみまやどくとあるとゆくけ
茶ほか用ゆれハさらに二日ふつかよひとること
あく冷ます用ゆれかまやどくけうれいあり

神功皇后御鎧袖藥

さんせんさんごちのこと茶

神仙神明湯

あんせんわいとう

價一包百銅
同半包四十銅

疥瘡

こぶんかゆくこのものごこふりめうあーけれべ
ふるちなようにろくのゆまひとをあ
わかとみふるこできものでおこちあれふくこころ
或ハさりいこみえごとるにハまさ用ゆれ妙

血の塊

ちのみちりのとちよういでこころくの
にふおんこのゆまひかさころのまれ茶ゆまひ
こちえごうれつよくむかさこと合こみの
にふいろいろあこいいて又ふにをみえごとる用て

疾痔

ちい男女大小児ともあるゆまひこべぢに
うぢきれぢあるぢたつこぢこれを五ぢと
いゆそらべれもなんごろるゆまひこ茶を
まり用ゆれべ五ぢとのとるこ

徴毒

だいどくとおひまの葉ばかりをせんじてのみ又はれものへぬりつけおけばいつさいのうみをとりそのあとよくなりまたとくだみをせんじてのむもよしまたおひまの葉ばかりをせんじてのむもよし

中風

ちうふうのやまひにこんがんいろ〳〵あり酒毒よりおこるもあり又あまりこへさせる人もよりおこるもあり又あまりこへさせる人もおひまの葉をもみよく煎じのむべしたゞしやまひの軽重によりて煎じやうをかへるべし

帯下

こしけいふじんのやまひにおひまの葉ばかりをせんじのむべしたゞしやまひの軽重によりて煎じやうをかへるべし

神養

男女ともにさいごにむまれつきよりそなはりたるいのちをおさゝるやうにまもりやしなふべきことなり此ねつきやうのこゝろをよくわきまへずしてはいたづらにくすりばかりのんでもなかなかにやまひのふかくなることもあり

さんぐん并小児

さんぜんさんごのまよびやうにおひまの葉ばかりをせんじのむべしたゞしやまひの軽重によりて煎じやうをかへるべし

五功丸

價壹包百銅

同一廻り銀三匁

○第一の留飲をそうじ胸のいたみをとり黄水を二便より下しさる妙〳〵

○第二の逆上して目かすみ耳なり歯いたみ年久しき頭痛ふ用ひて妙〳〵

○第三の頭瘡小児丹毒かゝの腫物雁ぐさその外そとにひろく有る人用て吉

○第四の酒毒よく自ら洩るゝ人用ひて妙〳〵

○第五大べん通じあしき人は薬をあたゝめ用ひよく通ずるもつてのほか

○第一の留飲をそうじ胸のいたみをとり黄水を二便より下しさる妙〳〵

○第二の逆上して目かすみ耳なり歯いたみ年久しき頭痛ふ用ひて妙〳〵

○第三の頭瘡小児丹毒かゝの腫物雁ぐさその外そとにひろく有る人用て吉

○第四の酒毒よく自ら洩るゝ人用ひて妙〳〵

○第五大べん通じあしき人は薬をあたゝめ用ひよく通ずるもつてのほか

家傳妙方

三國一風藥

價一ゝ〳〵十六銅
同十ゝ〳〵百廿四銅

功能書

○かぜいつさいかよ〳〵○ぞつうはし
○けんへきさめまひによし○たんせきよ〳〵
○泡のふつう忘ひよう〳〵○ぬひ忘よう〳〵
○ちのみちふよう〳〵○志よきえそひよう

本家調合所

大坂心斎橋博労町北江入

河内屋重太郎

取次所

江戸小傳馬町三丁目 書林 丁子屋平兵衛
同 下谷池端仲丁 同 岡村庄助
同 南傳馬町三丁目 同 三輪里幸藏
京都 三条柳ノ馬場西江入 近江屋次助

諸国の本屋ニ取次所多くさゝ出置申候
その方角ニ手よりの方ハ御求めなさるべし